

# 中学校 1年 国語科

表す

書く  
読む

育成したい  
国語力

情緒の深まりを自分の言葉で的確に書く。  
優れた感じ方、感情として読み取ったことを自分の表現に生かす。

**単元名** 言葉の世界「心にひびくメッセージ」

**本時の目標** ・「詩」の読み取りを基に、「自らの在り方」を見つめ直す。（読む能力）

**単元の流れ**

**第1時**

・「名づけられた葉」等の詩を基に、「自らの在り方」を見つめ直す。（詩の主題を現在の自分にあてはめ、感想を書く。）

**第2時（本時）**

・「心にひびくメッセージ」の鑑賞や演習を通して人とのつながりに気付く。

**第4時**

・「父へ」「母へ」などの詩の鑑賞をし、詩を創作する。

**書写**

・創作した詩をカードにする。

自己への気付き

・各学級で「自己の在り方」にかかる文章を書き、朗読するなどして、学級活動と関連付ける。

他者への気付き

**本時の流れ**

**導入**

一斉

前時の復習と本時の目標の確認

「自己の在り方」を出発点に「他者への気付きと思い」を言葉（詩）で表現する。

**展開1**

個別 グループ 一斉

詩の鑑賞

ワークシートを活用して「心にひびくメッセージ」を鑑賞する。（個別 グループ交流 全体交流）

**展開2**

個別

演習「自分を支えてくれている人」を行い、他者との関係に気付く。

**まとめ**

一斉

本時のまとめ・次時の予告

本時の学習をもとに、詩の創作をすることを予告する。

## 国語力育成の視点

詩を創作する前に、「詩」の鑑賞を基に自己の「在り方」を見直す機会をもつことが大切です。その段階を経ることで、表す力を育成することが可能になります。また、詩を創作した後、その詩を交流することで、「他者への気付き」を深めていくことも大切です。

国語の授業と学級活動等での書くことを関連付け、国語科以外の言語活動を充実させます。

創作を書写の発展的な活動に関連付け、活字や言語への関心を高めます。

## ワークシート

詩	友へ	家族へ	私へ
「心にひびくメッセージ」	この電話は現在使われておりません。直接会ってお話ください。 金丸智美（14歳）	「お母さん、」「お父さん、」が、なんだかわからない。心が、ほかほかしてくる。 長谷川由香（9歳）	私にしかできないことがある。きつとある。今はわからない。でも、きつとある。 黒木かつよ（19歳）
組			
名			

### 視点①

身近な題材の平易な文体で書かれた詩をモデルにして、創作活動への抵抗感をなくします。

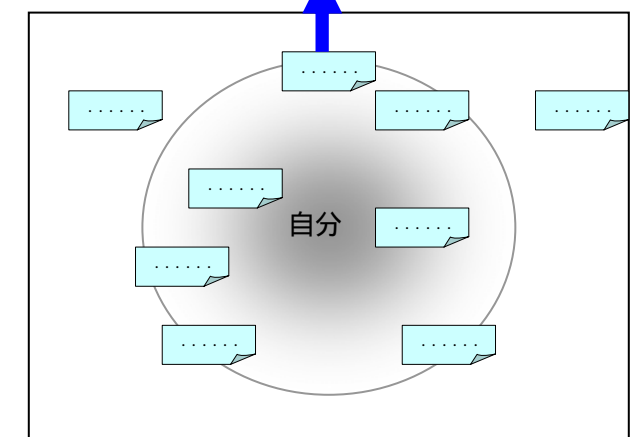
## 演習

### 視点②

演習を通し、気付きを高めて、創作の材料を充実させます。

名前 京都 太郎 くん

言葉 「優しくしてくれてありがとう」



低学年

中学年

高学年

中学前

中学後

国語

社会

数算  
数学数

理科

生活

外国語

活特別

道徳

総合的  
な学習